

大谷學報

第十卷 第三號

昭和三十三年七月五日發行

現生十種益の研究

稻葉圓成 (一)

——現實生活の指導原理——

宇治大納言源隆國の『安養集』に就いて 戸松憲千代 (八)

梵文大乘莊嚴經論にあらはれたる三性說管見

——求法品 (Dharmaparyaya-adhikarana) 第九を中心として——

野澤靜證 (四)

自然必然性、先驗的自由、實踐的自由(下)

——カント理論哲學から實踐哲學へ——

大友芳雄 (三)

兒童の宗教意識發達に關する實驗的研究

——主として就學前期及び低學年兒童に就いて——

守屋光雄 (二三)

本多前學長・小島・赤沼教授を偲ぶ……

予の追憶

本多圭馬師の想ひ出

故小島惠見教授を憶ふ

小島先生のことども

赤沼教授のことども

赤沼先生の思ひ出

(五)

河野法雲

朝永三十郎

茜部忍

可西大秀

林五邦

古海香雲

新刊紹介(二七) 研究室彙報(八四)

大谷大學

大谷學會

大谷學會々則

第一條 本會ヲ大谷學會ト稱シ、事務所ヲ大谷大學内ニ置ク。

第二條 本會ハ佛敎學、哲學、史學、及ビ文學ニ關スル諸般ノ研究ヲナスヲ以テ目的トス。

第三條 本會ノ會員ハ大谷大學敎職員、學生及ビ本會ノ趣旨ニ賛同スル者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ。
一、年四回雜誌『大谷學報』ヲ發行シ之ヲ會員ニ頒ツ。

二、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク。

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

一、會長 一名
二、理事 二名
三、委員 若干名

第六條 役員ノ職責左ノ如シ。
一、會長ハ本會ヲ代表シ、委員會ヲ總理ス。

二、理事ハ會長ヲ補佐ス。

第七條 役員ノ任期左ノ如シ。
一、會長ハ大谷大學々長ヲ以テ任ズ。

二、理事ハ大谷大學學監ヲ以テ任ズ。
三、委員ハ會長ノ指名トシ、任期ハ二年トス。

第八條 會員ハ雜誌『大谷學報』ノ配布ヲ受ケ本會主催ノ會合ニ出席スルコトヲ得。

第九條 會員ハ會費トシテ年額金參圓ヲ納ムベキモノトス。

第十條 本則ハ委員會ノ決議ニ依ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ。

附則 一、本會ハ佛敎研究會ヲ繼承ス。
二、本會ハ本學ニ於ケル佛敎學、哲學、人文學各研究室所屬ノ研究會ヲ統合スルモノトス。

三、本則ハ昭和三年一月ヨリ實施ス。以上

大谷學會役員

會長 大須賀秀道

理事 朽木 廣覺 高濱 哲雄
阿部 現亮 佐々木教悟

編纂委員 安井 廣度 鈴木 弘 山口 益
德重 淺吉 大庭米治郎 横川 顯正
正木 淨教 雨宮 尙治 野上 俊靜

會計委員 上村 幸次 佐々木教悟
吉田嘉一郎

編輯後記

稻葉先生の論文は豫定として發表せしものとは異つてゐるが、論註に關するものは後日、亦、戴けると思つてゐる。兎に角、學報の前身、佛敎研究第七卷第三號(大正十五年)以來、久し振りに先生の論文——簡潔なる文章の内らに、ほの見える狙ひの鋭き——に接し得たことを讀者と共に喜びたい。

本號に掲載の豫定なりし日下教授、及び、自見、宮田兩氏の論文は編輯の都合上、残念ながら次號に廻はすことになつた。

尙、本號には遅れ馳せながらも、故本多前學長並びに、故小島赤沼兩教授の追悼文を掲げ、さ、やかながら、今は亡き三先生の御遺徳を偲ぶよすがとした。略歴及び著書目録等に關して赤沼教授の分は林五邦教授を、本多前學長の分は太田邦夫氏を、小島教授の分は御子息、叡成氏を煩はした。茲に記して謝意を表する次第である。

七月にも入りて、方に校正の終らんとする折も折、又もや、住田智見先生の訃音を聞く。唯、哀悼の意を捧げるばかりである。

(編輯手)

大谷學報

四年四月發行

一月四月七月十月

會費 年額 金參圓(但前金送料共)
 定價 普通號 金八拾錢(送料六錢)
 特輯號 隨宜申シ受ク(送料六錢)

廣告料		普通頁	
表紙裏	參拾圓	一頁	拾貳圓
	拾七圓	半頁	拾圓

昭和十三年七月一日印刷
 昭和十三年七月五日發行

(第十九卷・第三號)

不許複製轉載

編輯者

右代表者

大谷學會
 高濱哲雄

印刷者

須磨勘兵衛

印刷所

大谷大學出版部
 京都市北小郡瑞野町西入

京都市烏丸大谷大學内

發行所

京都市烏丸頭
 大谷大學内

大谷學會庶務部

電話西陣一六四〇番
 振替大阪六七一八五番